

バイオマスタウン構想分析DB

[【リンク】大多喜町バイオマスタウン構想](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口 (人)	面積 (km ²)
		公表回	公表年月日				
18	2007.3.29			千葉県	大多喜町	11,514	129.84
構想の要約		農畜産資源の総合利用、木質系バイオマスの総合利用、菜の花エコプロジェクトの推進等、地域のバイオマス資源の総合的利活用を推進することにより、地域におけるバイオマス資源の循環の環を、経済的に有益で、環境に対して健全であり、かつ持続できる総合的な地域循環利用システムとして構築することを目指す。					
構想に盛り込まれた事業		農畜産資源の総合利用 木質資源の総合利用 菜の花エコプロジェクト					
バイオマス利活用目標		添付別紙参照					
バイオマスタウン構想概要図		添付別紙参照					

利用するバイオマス					
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス		資源作物	
家畜排せつ物	○	稲わら・もみがらなど	○	資源作物	○
農業系廃棄物(廃菌床など)		野菜等非食部			
食品廃棄物		間伐材・林地残材	○		
廃食用油	○	果樹剪定枝			
水産加工残さ		竹材	○		
製材工場等残材	○	その他()			
建設発生木材	○				
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草	○				
古紙・廃棄紙					
下水汚泥など					
その他()					

利用するバイオマス変換技術			
マテリアル利用のための変換技術		エネルギー利用のための変換技術	
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○	バイオガス化(メタン発酵)	
飼料化	○	直接燃焼	
バイオマスプラスチック製造		ガス化	
その他(マルチ)	○	炭化	
		固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)	○
		バイオディーゼル燃料化	○
		バイオエタノール化	
		その他()	

バイオマスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事
2010.5.11	2007.3.29バイオマスタウン構想公表(JORA協力。BTアドバイザー研修地)
2010.07.27	農村振興局助成措置:平成19年度、大多喜町、廃食用油バイオディーゼル燃料製造施設の整備

実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

バイオマス利活用目標

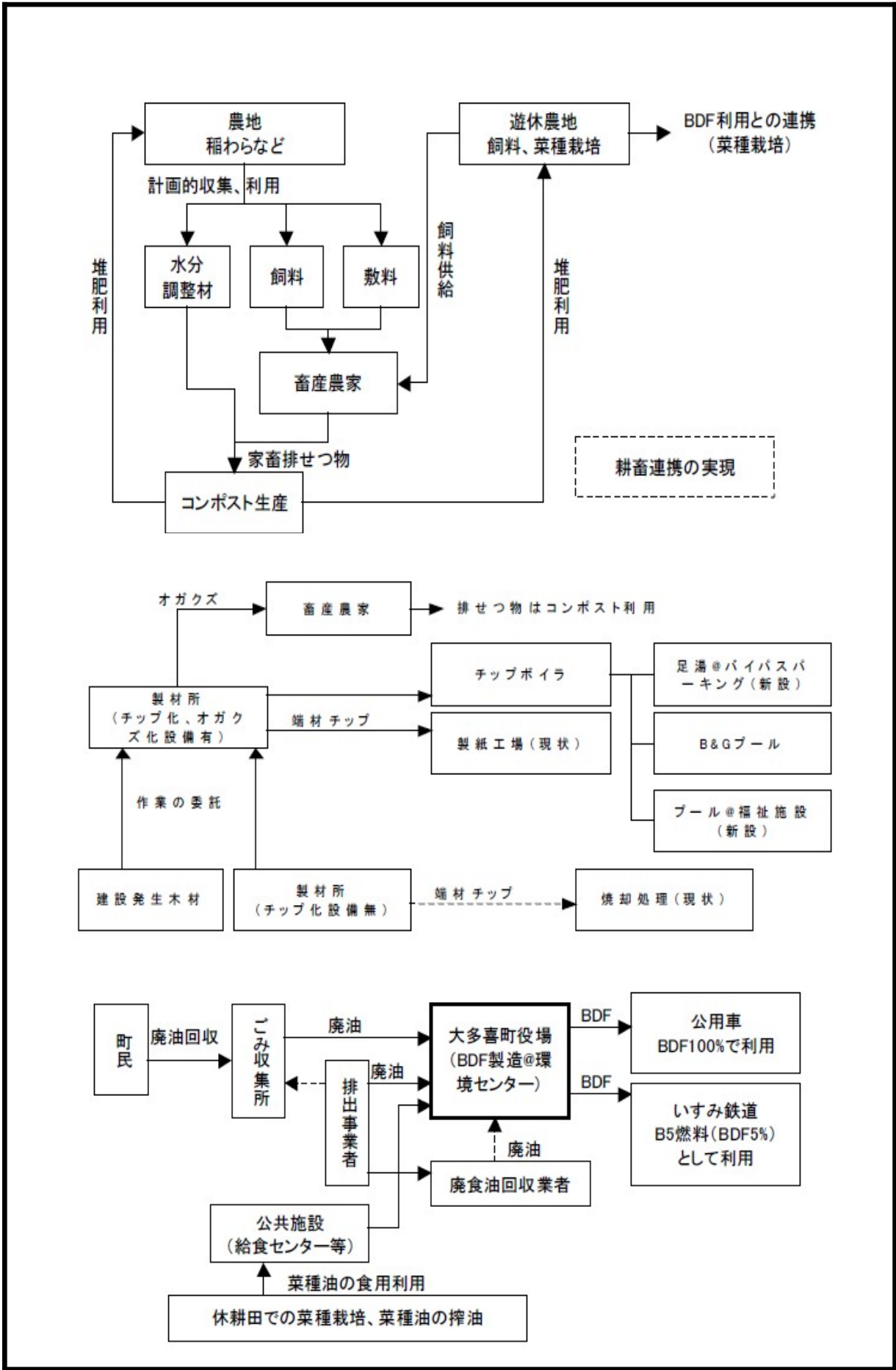
(バイオマスタウン構想書からコピー)

(1) 利活用目標

- ① 廃棄物系バイオマスは、全体として利用率90%を目指す。
 - 1) 家畜排せつ物90%以上
 - 2) 木質バイオマス(製材残材、建設発生木材等)90%以上
 - 3) 廃食油(一般家庭、小規模事業者)90%以上

バイオマスタウン構想概要図

(バイオマスタウン構想書からコピー)





実現した事業(その1)

事業の名称	バイオディーゼル燃料化事業
事業者名	大多喜町
事業所名	バイオディーゼル燃料製造施設
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	愛食用油
利用する変換技術	バイオディーゼル燃料化

事業の概要	<p>添付別紙(パンフレット等)参照</p> <p>(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)</p> <p>添付農林水産省作成資料「バイオマス利活用の取組事例」参照。</p>
-------	---

エ 千葉県大多喜町

都道府県名	千葉県	市町村名	大多喜町
市町村人口	1万901人	市町村面積	129.84km ²
主要施設の名称	バイオディーゼル燃料製造施設	実施主体名	大多喜町
原材料 (利用量 賦存量)	廃食用油 利用量9.6kl/年、賦存量38kl/年		
変換技術 (生産量)	バイオディーゼル燃料 製造量：3,000l（平成20年4～12月）		
取組の目的 ／背景	<ul style="list-style-type: none"> ・大多喜町では、町の基本目標として掲げる「美しく快適なおおたき～地球にやさしい快適環境のまちづくり～」を目指し、16年度に様々な地域資源について調査・検討・評価を行い、新エネルギーの導入の指針となる地域新エネルギービジョンを策定した。 ・これを基に地域にある資源を活用し、環境に優しい燃料の製造や活用、酪農と水田及び畑作経営の連携によるたい肥と粗飼料の循環利用、新しい観光振興への展開、地域の森林保全などを推進するため、19年3月にバイオマスタウン構想を策定した。 ・この取組の一つとして、家庭や公共施設（給食センター、保育園など）、事業所から出される廃食用油を回収し、バイオディーゼル燃料を精製して地域を走るいすみ鉄道などに利用している。 		
取り組みきっかけとなった課題	<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂排出量削減に結びつく循環型社会の構築と新エネルギーへの意識の高揚、観光振興へと展開し、資源循環型社会を目指すため、バイオディーゼル燃料製造施設を環境センター内に整備した。 		
実績 (計画段階のものは計画値を記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・処理量（製造能力）：100l/バッチ（1バッチ7時間） <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">バイオディーゼル燃料精製プラント</p>		
事業を進める上での課題	<ul style="list-style-type: none"> ・原料となる廃食用油回収量の安定的な確保や、バイオディーゼル燃料製造時に必要になる薬品のコストの削減 ・気温が下がるとバイオディーゼル燃料の性状が変化し使用できなくなる場合があり、いすみ鉄道では使用できない寒冷期などの利用策の確保 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオディーゼル燃料混合軽油への品質管理の要求が高くなれば、新たに設備投資が必要となることが懸念 ・バイオディーゼル燃料はゴムを劣化させる性質などが、実際の使用時に確認されており、車両への使用においては、改造費などの捻出が必要 	
維持管理体制 (維持管理費の実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・町内に約 400 ヶ所設置してあるごみステーションの出された廃食油を委託業者が回収し、回収された廃食油をドラム缶に溜めて静置分離して不純物を取り除いている。また、精製したバイオディーゼル燃料についても製造後 1 日以上静置させてから抽出している。 	
直面した課題を解決した工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・寒冷期の利用先として、公用車への仕様を検討 ・バイオディーゼル燃料精製する際に出来る副生産物であるグリセリンについての処理方法が課題であったが、たい肥の発酵促進剤として活用できることから地域の酪農家で利用してもらい、副生産物についても資源循環を図っている。 	
取組により得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスタウン構想で策定したプロジェクトの推進により、循環型社会の形成、地球温暖化防止、エネルギー自給率の向上など様々な効果が期待できる。 ・家庭で使用した天ぷら油を利活用し、バイオディーゼル燃料を精製し、地域を走るいすみ鉄道に利用 ・いすみ鉄道を走らせることによる、観光面における集客力の向上及び町民のまちづくりへの意識高揚 	
課題／展望	<ul style="list-style-type: none"> ・廃グリセリンの有効活用 ・バイオディーゼル燃料製造量の増産 ・廃食油回収量の安定的な確保 ・廃食油の排出方法の徹底 ・燃料製造コストの高騰への対応 ・廃食油の回収を通じた住民の環境意識の高揚 	
その他		
連絡先	電話番号：0470-82-2111	FAX 番号：0470-82-4461
	所属部署：企画商工観光課	e-mail：kikaku@town.otaki.lg.jp